



おしラボ。

2026年度上期活動報告について

2026/9/30

特定非営利活動法人 Oita Social Innovation Laboratory
ファウンダー 兼 ITコーディネータ 齊藤 周作

撮影場所：大分県中津市本耶馬溪町曾木

ご挨拶

～共創で挑む、新しい社会課題解決～

このたびは特定非営利活動法人 Oita Social Innovation Laboratory の活動にご関心をお寄せいただき、誠にありがとうございます。

現在、大分県は人口減少に伴う担い手不足、地域経済の活力減退、VUCA(将来の予測が非常に困難な不安定な状況)へのリソース配分など、非常に多くの課題に直面しています。これらの課題は、従来のやり方では乗り越えられません。

私たちは、この困難な時代だからこそ、地域課題を解決しつつ収益を生み出す「ソーシャル・イノベーション」が必要だと強く感じています。当法人は、地域をより良くしたいという「志」を持つ個人や団体に対し、その事業アイデアが安全に、そして確実に離陸するための支援を行っています。特に、SX(サステナブルトランスフォーメーション)推進を軸とした革新的な事業創出や、次世代の地域経済を牽引する人材の育成に注力しています。学生、企業、行政など、多様な主体が交わり、知識や技術を共有する「共創の場」こそが「ソーシャル・イノベーション」を生み出す源泉です。

これからも、経営計画に沿った活動を通じ、持続可能で活力ある地域社会の実現に貢献することを約束するとともに、未来を創り出す地域の挑戦者の皆様と共に、知恵を出し合い、真に活力ある未来を構築していくため、SX（サステナブル・トランスフォーメーション）を地域経済の実践へ落とし込む「変革の起点」となり活動してまいります。

皆様の温かいご理解とご支援、そしてぜひ積極的な活動への参画を心よりお待ちしております。



大分県 NPO ポータル

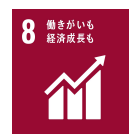


Facebook



Innovation
ory
I Choose, We Challenge, Oita Change

1. 私たち(おしらボ。)について(2/2)



●設立目的●

- ・VUCA時代や30年後の未来(Society5.0/SDGs/GX)を見据えた 全く新しいビジネスアイデアを創造、融合させ、大分県独自の産業を新興させること
- ・大分県に超長期で地域に活力をもたらせるビジネスアイデアを集合させ、「競争」させる前に、先ずは「共創」させ、ビジネスモデルとして安全に離陸させること

●事業内容●

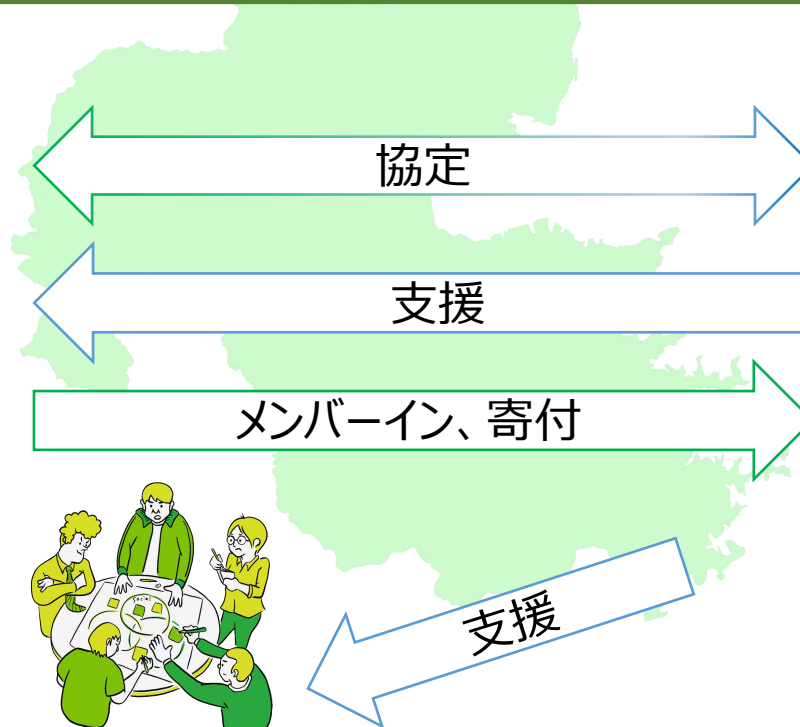
大分県民や地域活性化を志す者に対して、これまでにない地域活性化ビジネスのデザイン、開発、テストの支援に関する事業を行い、大分県内にソーシャル・イノベーションを興す企業の組成に寄与する

●事業による公益の寄与●

県内経済の発展 … 新規創業、雇用創出、域内消費の拡大、定住・移住の促進、地域経済エコシステムなど、またこれら好循環によるさらなるビジネスアイデア創出



社会課題に取り組む
個人・企業・団体



社会課題に取り組む個人・企業・団体

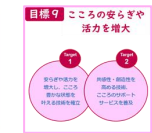
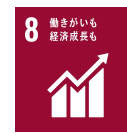


おしらボ。のメンバー
(経営者、起業家、専門家、学生)

※大企業によるバックアップも現在準備中。



2. おしラボ。の事業計画について



(1) 長期経営計画

当法人設立目的達成に向けた、「方向性(経営)」の安定性、「行動計画(活動)」の推進力強化を兼ね備えた長期経営計画(10年後の“目指したい”姿／ロードマップ)を策定しました。設立目的を時系列に並べ、「**方向性**(バックキャストिंग)」として設定。事業内容を時系列に並べ、**行動計画**(フォアキャストिंग)として設定。当法人の「事業による公益の寄与」を忘れずに、後述の中期経営計画に沿って行動します。

<方向性>バックキャストिंग(Compass)

設立目的

超長期で地域に活力をもたらせる
ビジネスアイデアを集合



事業内容

地域活性化を志す者の探索

設立目的

全く新しいビジネスアイデアを創造、融合
「競争」の前に先ず「共創」



事業内容

これまでにない地域活性化ビジネスの
デザイン、開発、テストの支援

設立目的

【おしラボ。の10年後の姿】
大分県独自の産業を新興させる

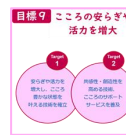
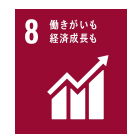


事業内容

【おしラボ。の10年後の役割】
大分県内にソーシャル・イノベーションを
興す企業の組成に寄与

<行動計画>フォアキャストिंग(Action)

2. おしラボ。の事業計画について



(2) 第一次中期経営計画

- ①10年後の“目指したい”姿を達成させるための、3年後の“あるべき”姿と目標(KGI&KPI)を設定し、2025年4月1日に実行開始しました。
- ②今回は2025年度から2027年度の3年間の事業にて、SX(サステナブルトランスフォーメーション)を軸とした、「超長期で地域に活力をもたらせるビジネスアイデアを集合」と「地域活性化を志す者の探索」をテーマに目標を立て、計画のとおり遂行しています。

<方向性>バックキャスティング(Compass)

テーマ①

超長期で地域に活力をもたらせる
ビジネスアイデアを集合

2025年



2027年

テーマ②

地域活性化を志す者の探索

目標：ビジネスアイデアの実務検証(ビジネスコンテストで評価)

KGI・・・3年で3回ビジコンに出場／KPI・・・各事業毎に1回ビジコンに出場

3年後の“あるべき”姿

(取組)全く新しいビジネスアイデアを創造、融合、「競争」の前に先ず「共創」できる“ヒト(会員)”、“モノ(環境)”、“コト(アイデア)”が揃っている状況。→「**方向性(経営)**」の**安定性を確保**

(結果)安心して、これまでにない地域活性化ビジネスのデザイン、開発、テストの支援ができるようになる。

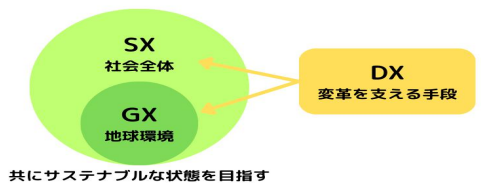
→「**行動計画(活動)**」の**推進力強化を担保**

ソーシャルイノベーションに必要な革新的取組み(トランスフォーメーション)の成果物
=SX(サステナブル・トランスフォーメーション)

社会のサステナビリティと企業のサステナビリティを「同期化」させていくこと
及びそのために必要な経営・事業変革。(出典：経済産業省/伊藤レポート)

- ◆SDGsとともに「持続的」という意味の言葉が包含。SDGsは持続的な社会、SXは持続的に稼ぐ力を指し、社会的価値と経済的価値という意味で違います。
- ◆GX(グリーン・トランスフォーメーション)はSXの一部であり、DX(デジタル・トランスフォーメーション)はSX/GXを推進する手段。

SX・GX・DXの関係性



©2023 SDGs media

目標：地域活性化をもたらすイノベーターやアントレプレナーなどをおしラボ。へ参画

KGI・・・3年でおしラボ。会員が50名／KPI・・・各事業毎に10名を参画

<行動計画>フォアキャスティング(Action)

3. 【Topic①】大学へ教育動画の提供



(1) 看護師・介護士等を対象とした「エッセンシャルワーカー」が、ITやAIを活用した業務改善の手法を学び、現場における生産性向上を担う人材を育成することを目的とする教育プログラムを、一般社団法人AI・IoT普及推進協会と協働して、提供しました。



(2) 大分県のような地域において、社会生活を支える職種も、「現場を回す」だけのモデルは終焉を迎え、アドバンスト・エッセンシャルワーカーのような**新しい働き方ができる組織、新しい働き方をする従事者**が、地域社会の持続可能性に関わりながら活躍する価値創造のフェーズへ移行しなければならないことを啓蒙する動画を4つ、おしうボ。名義で提供しました。

大分大学地域連携プラットフォーム推進機構(おおいた地域連携プラットフォーム)
令和8年度 リスキリング・リカレント教育プログラム

エッセンシャル
ワーカー
AIコース
支える仕事から、
変革を起こす仕事へ。



情報活用		
①ケアの品質向上、②業務効率化、③経営判断の迅速化は、 情報活用 から始まり、 情報活用 は、 アドバンスト・エッセンシャルワーカー を創出する。		
項目	(今まで)	(これから)
支援のトリガー	要請・事故発生後の「受動型」	データの異変を捉える「能動型」
働き方／個人	・堅実に決まった業務をこなす ・組織やチームの手法となり、組織全体を安定させる	・従来型に加え、自律的に情報活用を考え、学び、知見を組織内で活かす ・情報活用による地域・施設・個人・組織の全体最適（情報活用の風土づくり）
経営／組織	地域・施設ごとの部分最適	業務プロセス改善、新規事業への挑戦など、利用者体験の質、スタッフの働き方を同時に高める
イノベーション	部分的なIT化、業務フローの修正など限局的	

なぜ今「変化」が必要なのか

<背景>
現在、大分県をはじめとする地域社会は人口減少に伴う担い手不足、経済・産業の活力減退、VUCA（将来の予測が非常に困難な不安定な状況）へのリソース配分など、非常に多くの課題に直面

→これらの課題は、従来のやり方では乗り越えることはできない

社会生活を支える職種も、「現場を回す」だけのモデルは終焉を迎え、アドバンスト・エッセンシャルワーカーのような新しい働き方ができる組織、新しい働き方をする従事者が、地域社会の持続可能性に関わりながら活躍する価値創造のフェーズへ移行

誇りを持って、働ける現場へ

アドバンスト・エッセンシャルワーカーは、単純な労働者ではありません。テクノロジーを使いこなす、高度な対人スキルで利用者の人生を彩る「ケア・クリエイター」です。

デジタル化がもたらす「手と目」の目利きと、本来の専門性を最大限に発揮できます。

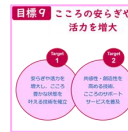
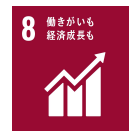
経営にとっての価値：選ばれる組織へ

NO.1 地域で選ばれる組織

成長、挑戦、イノベーション
アドバンスト・エッセンシャルワーカーが定着する組織は、ケアの質が向上し、結果として利用者や関係者から選ばれやすくなると考えられます。また、現場発のイノベーションによる経営効率の改善も期待できます。



3. 【Topic②】社会起業家の誕生



(1) Oitaイノベーターズコレジオ卒業生で、おしラボ。の会員である吉岡様がこの度起業いたしました。



一生に寄り添う
コンシェルジュサービスを



吉岡 恭介(代表)
Kyosuke Yoshioka



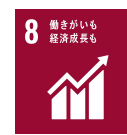
(2) 日本の主要な社会課題である「超高齢化社会」や「高齢者の孤独・QOL（生活の質）の向上」に着目し、シニア世代の人生や生活を豊かにするためのオーダーメイドサービスを展開します。公的な介護保険サービスだけではカバーしきれない「本人の生きた証を残したい」、「自由に行きたい場所へ出かけたい」といったシニアジェネレーションの精神的・情緒的なニーズ（社会課題）をすくい上げるアプローチをビジネスに落とし込みました。

(3) シニアジェネレーション向けサービスとして以下3つを提供予定です。

- ①ライフブック … これまでの「人生の価値観」や記憶をヒアリングし、オーダーメイドで訪問型の写真整理アルバムを制作するサービス
- ②体験型同行送迎 … 希望に寄り添った思い出作りや外出をサポートする同行送迎
- ③コンシェルジュサービス … 要望や困りごとに合わせた最善の個別プラン・仲介提案



3. 【Topic③】事業計画のプログラム化



- (1) おしラボ。が特定非営利活動促進法に基づき行う事業のうち、「特定非営利活動に係る事業」は下図のとおりです。
これらの事業のうち、「社会教育の推進を図る活動」と「経済活動の活性化を図る活動」はOitaイノベーターズコレジオのDNAによるシナジーによって支えられているのにも関わらず、各活動が独立、個別化されており、明確な計画や目標などが無いことから、今回、計画全体を統べるプログラムを準備しました。

特定非営利活動法人Oita Social Innovation Laboratory

1. 社会教育の推進を図る活動

- (1) イノベーション人財の発掘・教育活動

2. 経済活動の活性化を図る活動

- (1) オープンイノベーション支援活動
- (2) スタートアップ支援事業
- (3) アクセラレータープログラム支援活動

3. 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動

この法人の事業遂行で生まれる雇用機会を開発する活動

4. その他この法人の目的に係る事業遂行に必要な事業



Oita Innovators Collegio

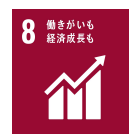


Socio Inovadors Collegio (ソシオ・イノバドールズ・コレジオ)

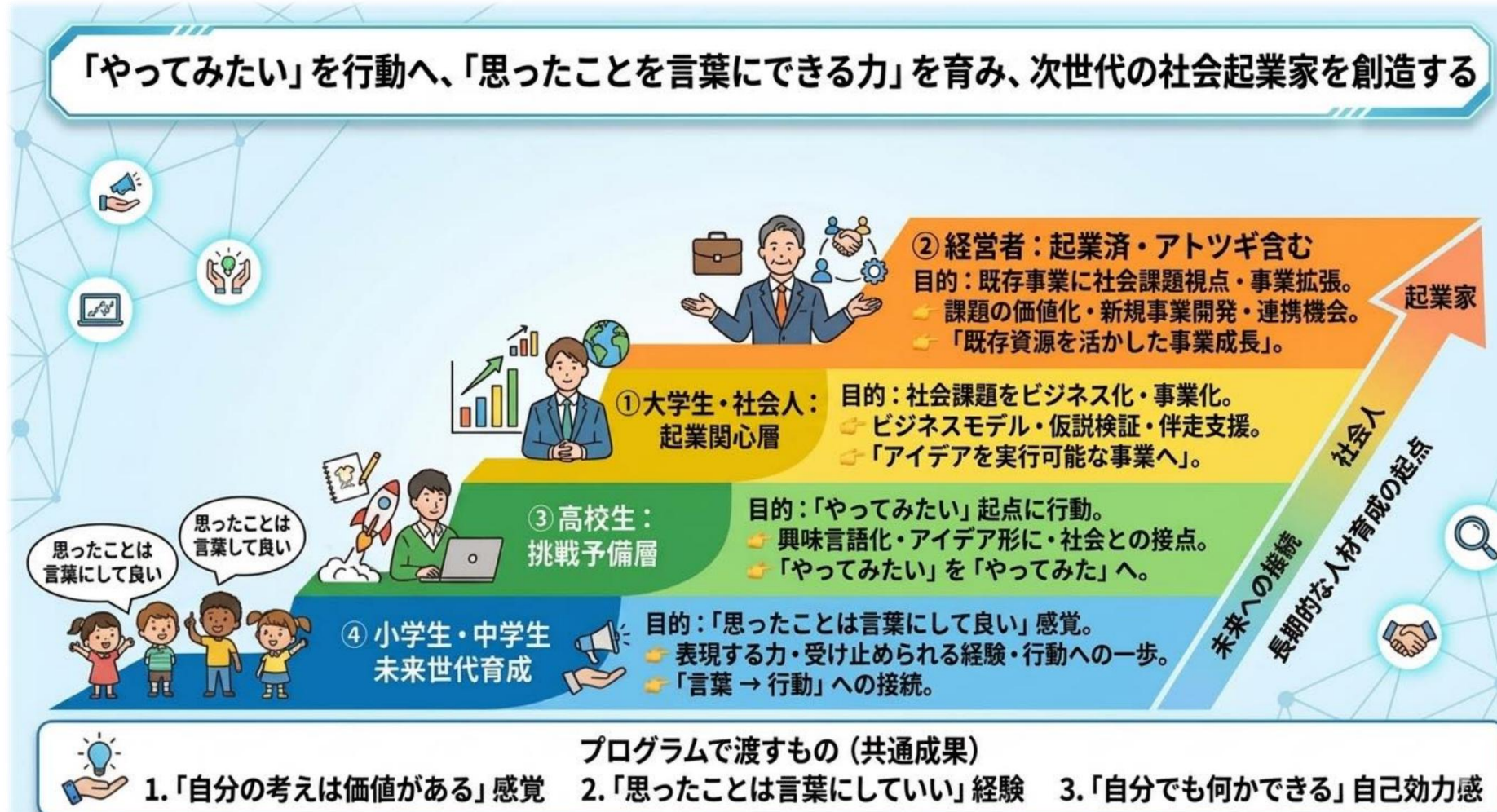
ポルトガル語で「社会を変える志を持った仲間たちの学び舎」といいます。大分県が持つ進取の気風（新しいものを取り入れる気概）と、地域を変革するイノベーター育成を融合させ、かつての「南蛮の最先端都市」という誇りを再認識し、再びこの地から変革（イノベーション）を起こす仲間（ソシオ）を育て、新しい「南蛮文化（＝現代の革新）」を築くという意志が込められています。

Social Innovation
Laboratory
I Choose, We Challenge, Oita Change

3. 【Topic③】事業計画のプログラム化



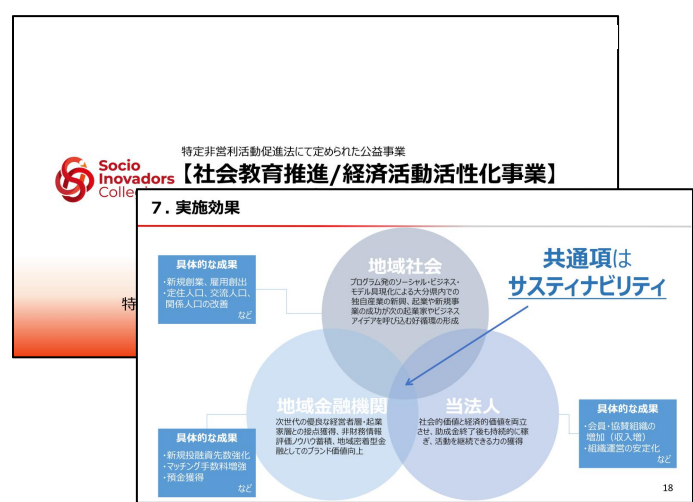
(2) プログラムのマスターコンセプトは下図のとおりで、会員有志に設計・策定いただきました。本件をベースに、大分県民や地域活性化を志す者に対して、レイヤー毎に、これまでにない地域活性化ビジネスのデザイン、開発、テストの支援に関する事業を行い、大分県内にソーシャル・イノベーションを興す企業の組成に寄与する方針です。



4. 2026年度上期の挑戦について



(1) 行政プロポーザル、私企業のオープンイノベーション参画、金融機関の助成事業へ挑戦しました。



①私企業のオープンイノベーション参画
一般社団法人AI・IoT普及推進協会、
大学教授などと協働して、災害時×AI×
ドローンのアイデアで応募しました。

②行政プロポーザル
会員有志みんなと一緒に企画書を策定し、
会員主体でプレゼンテーションを実施しました。
この取り組みから、事業計画のプログラム化へ
繋げることが出来ました。

③金融機関の助成事業
会員有志、外部の任意団体開催の
プログラムと合流して企画書を策定しました。

(2) 残念ながら落選をしておりますが、プレゼンス向上のため、2026年度下期も継続して、役員／会員、一致団結して同等の取り組みに挑戦いたします。



【会員募集のお知らせ】



おしラボ。は、未来を創り出す地域の挑戦者の皆様と共に、知恵を出し合い、真に活力ある未来を構築していくため、SX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)を地域経済の実践へ落とし込む「変革の起点」となり活動しております。

変革の起点となるのは、常に『**志**』です。

おしラボ。は持続可能で活力ある地域社会の実現に貢献することを約束するとともに、皆様の温かいご理解とご支援、そしてぜひ積極的な活動への参画を心よりお待ちしております。

※定款やパンフレットを読んでいただき、賛同いただけるようでしたら、役員や会員へ声掛けください（会費は1,000円／年です）

2026年9月吉日

特定非営利活動法人 Oita Social Innovation Laboratory（愛称：おしラボ。）

理事長：高木 厚次、副理事長：安部 慎次、山崎 美和、理事議長：後小路 舞、監事：江藤 彰悟



大分県 NPO ポータル



Facebook



おしラボ。のメンバー
(経営者、起業家、専門家、学生)

2026/3月末時点で25名参加



End of Presentation

撮影場所：大分県豊後大野市大野町中土師